

## 八王子キャンパス泡消火剤流出事故対策に関する中間報告

昨年7月に本学園八王子キャンパスで発生したPFOSを含む泡消火剤の流出事故につきまして、学生・保護者、近隣地域の皆様には多大なご迷惑とご心配をおかけしましたこと、改めてお詫び申し上げます。昨年9月からは通常通りの教育・研究活動に復旧し、その後学園内の施設についてPFOSの除去作業を行ってまいりましたが、本年4月中には調整池部分を除く学園内の環境を事故前の状態に復旧することが可能となる見込みです。これまでの対応と今後の見通しについて、以下の通りご報告致します。

### 1. 事故発生の経緯

令和7年7月10日(木)午後9時30分頃、本学園八王子キャンパスの本部棟地下車路の泡消火剤配管から泡消火剤が流出しているのを警備員が発見。連絡を受けた施設管理を受託している設備管理会社担当者が現場に駆け付け、警備員とともに事故処理を行いました。その際に、車路に流出した泡消火剤を雨水枡に排出(推定約2ℓ)、また流出している泡消火剤を止めるため、ポンプ停止後に配管内に残存している薬剤をバルブ開放して放出しています(推定約50ℓ)。この泡消火剤にはPFASの一種であるPFOS※が含まれており、雨水枡から雨水が流れ込むキャンパス内に設置されている調整池、バルブを開放して放出した分は本学園の污水处理場に、それぞれ流入しました。

※PFOSとは：炭素とフッ素からなる化学物質PFASの一種で、泡消火剤のほか半導体反射防止剤や金属メッキ処理剤として使用されています。難分解性、高蓄積性、長距離移動性という性質を持っているため、予防的取組としてPOPs条約対象物質として2009年指定され、日本国内では2010年第一種特定化学物質として指定され、製造・輸入が原則中止とされています。

### 2. 事故発生原因

PFOSを含む泡消火剤の管理については本法人でも法令に従った年2回の消防設備の点検を行っており、令和7年3月に実施した点検でも問題は発見されていません。泡消火剤配管の該当部分が経年劣化により破損し泡消火剤が流出したものと考えられます。

### 3. 事故に伴う影響

本学園八王子キャンパスでは、敷地内に独自の污水处理施設を設置しています。キャンパス内で使用された汚水をこの施設で処理し、処理後の中水は学内のトイレ等で循環使用し、余剰分は雨水を溜める調整池に放流。調整池が一定の水位を超える場合はキャンパス外の水路である公共用水域に放流する仕組みとなっています。

今回の事故により污水处理場及び調整池にPFOSが流入し、環境省が定める指針値(河川におけるPFOS及びPFOA合計値)である50ng/ℓを超える濃度となったため、公共用水域への影響を勘案し、放流を停止することとしました。このため污水处理場に流入する汚水が溢れる危険が生じ、本学園内の他のスペースに移送する等の対応を行いました。貯蔵できるスペースも限られるため、キャンパス内で発生する汚水を最小限にすることが必要となり、7月17日以降8月末までキャンパスを原則閉鎖することとしました。学生の授業等についてはオンライン実施や後日振替授業を行う等の対応で教育への影響は最小限に止めています。

#### 4. 事故処理対策の実施

事故後八王子市へも報告を行い、対応策について全面的に指導を受けて進めて参りました。

7月17日には理事長を総括責任者とする対策本部を設置し、学生・教職員・近隣地域の安全を最優先とした上で、学校生活の正常化を早期に目指す対策の実施を進めております。

キャンパス内に貯蔵した PFOS を含んだ汚水は、処理を認可された産業廃棄物業者が搬出を行い学外で処理。汚水処理場に流入する水については、外部協力企業が設置した仮設プラントで水処理を実施し、PFOS を除去し指針値を下回る状態で公共用水域に放流できる仕組みを整えました。これにより、キャンパスの通常使用が可能となり、9月以降の専門学校及び大学の後期授業は予定通り開始することができました。

その後、汚水処理場については内部に溜まった汚泥を搬出する等の作業を行い、令和7年12月末時点で処理場から出る処理水も指針値を下回ることが確認され、除去プラントを通さずに公共用水域に放出できるまで改善しました。その他事故当初泡消火剤が流出した雨水配管部分や汚水処理場に排出した配管に隣接した地下ピット等の PFOS 濃度が高い部位については PFOS の除去と流出を防ぐ工事を進め、令和8年3月末で完了しました。

なお、本学園外への PFOS 流出状況についてキャンパス外水路での定期的な水質調査を8月4日より行い、8月27日以降指針値を上回る数値は検出されていません。また、本件に起因する健康被害の報告は確認されていません。

#### 5. 令和8年4月以降の事故処理対策

汚水処理場をはじめとするキャンパス内の主要施設の事故処理は令和8年3月で完了し、今後は調整池内の PFOS 処理を継続してまいります。

指針値を超える PFOS を含んだ水の公共用水域への流出を防ぐため、事故発生後速やかに調整池の放流口を閉鎖して放流を停止しております。調整池横にも汚水処理場と同様の仮設プラントによる水処理を実施。処理後の水質に問題がないことを確認し公共用水域に放流しております。ただし、調整池底の汚泥にも PFOS が沈降していることが想定され、雨水等が流入した際に PFOS が溶出していく可能性があります。このため、PFOS 除去の新たな装置を導入し、池の水を循環させて汚泥からの溶出を促進しながら除去を進め、調整池からの放流水の PFOS 濃度が指針値以下に収まる状況を目指し、令和8年中の作業終結を目指します。

#### 6. 今後の再発防止策

事故発生後、学園内にある他の泡消火設備も緊急点検を行い、問題がないことを確認しました。一方、今回の事故発生直後の対応での問題点として、流出した泡消火剤を調整池や汚水処理場内に混入させたことが事故の影響を非常に大きくしたと考えます。同様の事故があった場合には、流出した泡消火剤を隔離し速やかに産業廃棄物として処理することで、被害の拡大を最小限に止めるため、事故発生時の対応マニュアルを新たに作成するとともに、事故対応訓練を行っています。

最終的には PFOS とそれ以外の PFAS を含まない消火設備への入れ替えを検討し、PFOS 流出リスクを無くすことを目指します。

以上